

平成30年度第1回本別町子ども・子育て会議

【議事概要】

日時：平成30年11月15日（木）

午後6時30分～

場所：本別町中央公民館 第2会議室

出席者：委員11名、高橋町長、事務局4名 計15名

顛末：下記のとおり

1. 委嘱状交付

町長より新委嘱委員へ委嘱状を交付（2名）

委嘱状交付後町長あいさつ ～ ちょうど今日は来年度採用職員の面接だった。多くの受験生が、興味のある時事ニュースとして待機児童、子育て支援、児童虐待等、子どもに係る問題を挙げていた。社会の関心が集まる事項について、ここでみなさんにご検討いただくこととなるので、今後町政を進めるうえでの参考とさせていただきたい。

2. 開会 午後6時30分

3. 会長挨拶

会長 田西 昭子

先日は中央小学校の学習発表会を観覧し、子どもの成長とたくましさを肌で感じる事ができた。改めて子どもは地域の宝だと感じた。

今日は新たな計画づくりのスタートとなる会議なので、みなさんの忌憚のないご意見をいただきたい。

4. 報告事項

平成30年度 経過報告について（説明：石川主査）

- ・平成30年4月 仙美里学童保育所開設
- ・ 同月 認定こども園ほんべつにて行っている病児保育事業の類型を「病後児保育事業」から「体調不良児対応型事業」に変更
- ・ 6月 利用者負担額条例の改正（国の制度改正に伴うもの）
※1号認定子どもの利用者負担額を減額
- ・ 9月 利用者負担額条例の改正（国の制度改正に伴うもの）
※利用者負担額算定に用いる所得区分の設定方法変更

5. 協議事項

(1) 第2期 本別町子ども・子育て支援事業計画の策定について

(説明：石川主査)

平成27年3月策定の「未来にひろがる まめっ子すくすく計画」は、

- ① 子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業計画・・・義務策定
- ② 次世代育成支援対策推進法に基づく次世代育成支援行動計画・・・任意策定

2つの計画を合わせたもの。

①の子ども・子育て支援事業計画は、認定こども園と保育所の利用希望や、各種子育て支援事業（一時預かり、延長保育、学童保育等）のニーズを推計し、それらのサービスの提供体制をどのように整えるか、目標を数値化するもの。

②の次世代育成支援行動計画は、子どもの育ちと子育てを支えるため、本別町として取り組む施策を項目立てし、目指すべき方向性・理念を定めるもの。

現計画は平成31年度（2019年度）末をもって計画期間の満了を迎え、平成32年度（2020年度）から第2期計画をスタートさせるにあたり、これからその策定作業を進めていく。策定スケジュールについて説明。

質疑・意見 なし

（2）本別町子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について

（説明：石川主査）

「就学前児童用」アンケートは、主に①の子ども・子育て支援事業計画策定の基礎となる、各種サービスのニーズを量るために行うもの。家庭の状況からこども園や保育所、その他子育て支援サービスの利用希望を推計する（青色印字部分）。同時に、②の次世代育成支援行動計画策定の参考とするため、子育てをしていくうえで困っていること、負担に感じていること、本別町で取り組むべき事項を吸い上げたい（黒色印字部分）。

「小学生用」アンケートは、主に②の次世代育成支援行動計画策定の参考とするためのもので、小学生の放課後の過ごし方、特に学童保育所や児童館の利用状況、食事や家庭学習をはじめとした家庭での過ごし方を参考に、今後取り組むべき施策の参考としたい。

また、就寝時間と起床時間についての設問を追加する（就学前児童用は年長児のみ）。

配付は11月最終週、回収は12月20日ごろを予定。

質疑・意見

○回収率はどれくらいを見込んでいるか？

⇒現計画策定時のアンケートの回収率は70%弱だったので、今回も同じくらいを見込んでいる。学校やこども園、保育所にアンケートの配付・回収を依頼し、こども園等を利用していない家庭には郵送による配付・回収を行う。

○子どもの健診時や子育て支援センター利用時も回収できるようにしては？

⇒回収率を上げる有効な方法だと思うので、関係機関に依頼したい。

（3）本町の子ども・子育てに係る課題について

（説明：大橋課長）

児童館の状況、へき地保育所の状況、認定こども園ほんべつの状況を説明。

児童館・・・0～18歳の子どもと保護者を支援する施設と位置付けられている。近年はその機能を有する他の施設やサービスが増えてきており、今後は児童館のあり方について検討が必要。

へき地保育所・・・現在は勇足地区と仙美里地区に設置しているが、仙美里保育所の児童数は平成30年度末で7人、平成31年度末で5人の、その後も少人数が続くと見込まれている。

認定こども園ほんべつ・・・今後も町内の出生数減少は続く見込み。児童数確保のために園と町が連携する（近隣町在住児の広域利用受け入れなど）。

質疑・意見

○児童館は、子どもの数が少なくなれば1つにまとめることも検討するのか？

⇒単純に子どもの数が少なくなったからといって1つにする、というものでもない。ソフト面の充実も同時に考えなければならない。利用する子どものことを最優先に考える。

○こども園は、利用者数が減ると空き部屋も出ると思うが、そうなった場合の有効活用について考えはあるのか？

⇒活用方法はいろいろ考えられるが、園と町の協議の中で決めたいと考えている。現段階において園からの申し入れ等はない。

○保育料無償化も良いが、出産祝金の方が保護者は喜ぶのでは？教育費として貯めておける。

⇒保育料の無償化は国が進めているもので、無償化による経費をどこがどれだけ負担するかが注目されている。本別町の負担が現状より軽くなるのであれば、新たな施策を考えたい。

○へき地保育所の給食は給食センターからの配送で、夏休み、冬休みなどの期間は保育所の給食は出ない。こども園からの配送などはできないのか？

⇒給食センターとこども園は運営母体が異なるため、お互い協議が必要。搬出搬入のための設備の整備、配送する車両や人員等の確保、経費負担の問題など、検討事項が多いため、すぐに実現できる問題ではないと受け止めている。貴重なご意見として実現の可能性について検討していきたい。

6. 閉会 午後8時00分